

内科専門研修での 病歴要約評価と修了判定における J-OSLERの利用

日本内科学会専門医制度審議会
J-OSLER検討委員会



2019年12月

Online system for **S**tandardized **L**og of **E**valuation and **R**egistration of specialty training system

新・内科専門医制度で進化しつつあること

専攻医の努力＋指導医の形成的指導

双方向性の評価を残す

施設内評価　＋　形成的指導

プログラム管理委員会による修了認定

専門研修の標準化・見える化・質の担保

内科専門研修での 病歴要約評価と修了判定における J-OSLERの利用

症例経験・病歴要約の個別評価

病歴要約の一次評価（プログラム内）

病歴要約の二次評価（プログラム外）

修了判定基準の登録

内科専門研修での 病歴要約評価と修了判定における J-OSLERの利用

症例経験・病歴要約の個別評価

病歴要約の一次評価（プログラム内）

病歴要約の二次評価（プログラム外）

修了判定基準の登録

逐次、内科専門研修実績と評価を

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

症例登録および病歴要約作成(逐次)

- ✓ **症例登録**: 週に1~2例(受け持ったら随時登録)
- ✓ **病歴要約登録**: 月2~3例
- ✓ 1年次目標: 症例登録数60(20疾患群)、病歴要約10以上
- ✓ 2年次目標: 症例登録数120(45疾患群)、**病歴要約29(以上)**
- ✓ **技術技能評価**(専攻医:いつでも登録 指導医への依頼:半期ごと)

上期(7~9月)・下期(1~3月)に行う

専攻医

- ✓ 専攻医自己評価
- ✓ 指導医評価
- ✓ プログラム評価(下期)

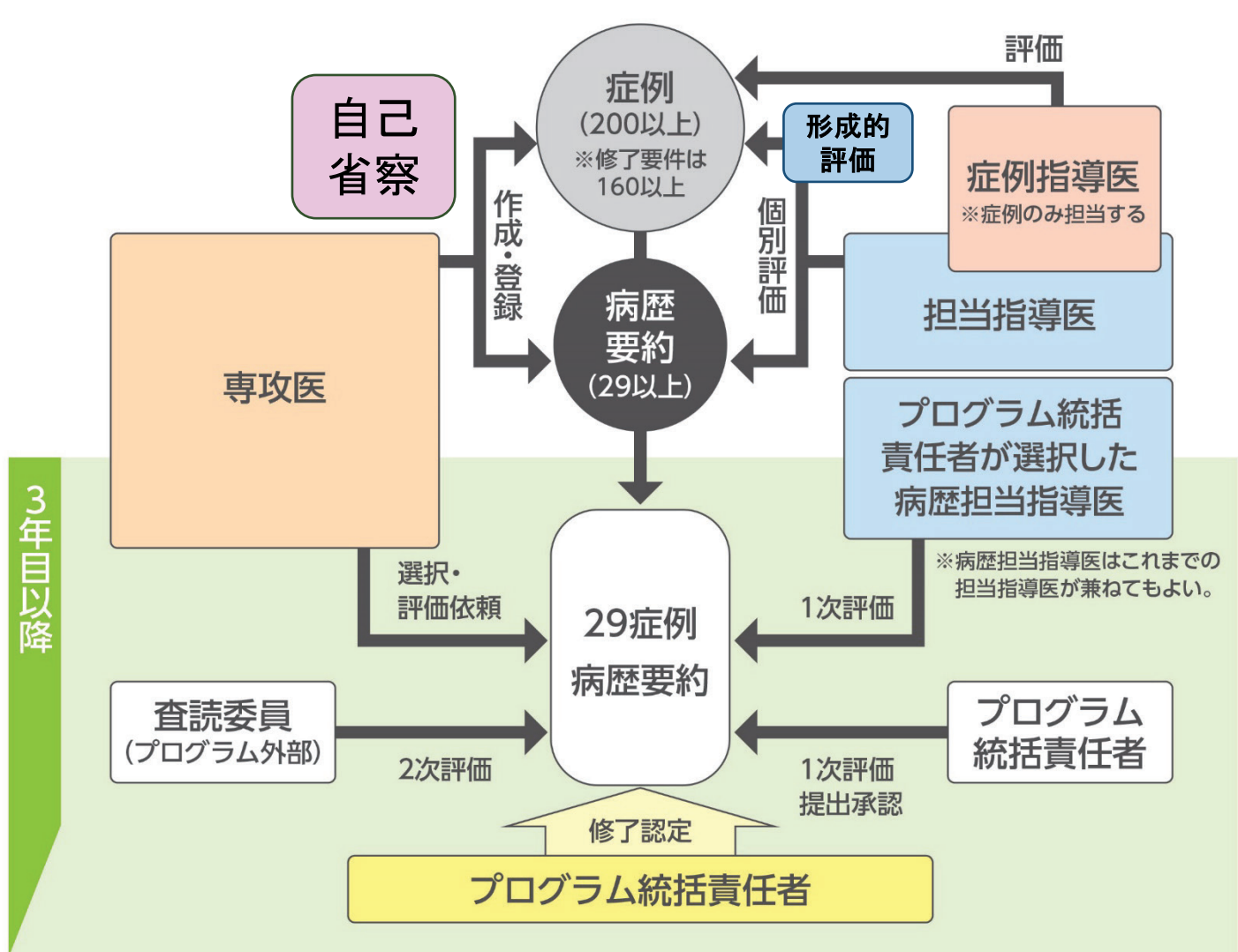
指導医

- ✓ 専攻医評価
- ✓ 多職種評価

内科専門研修に相応しい症例経験と 病歴要約を指導医の形成的評価とともに記録する

専攻医登録評価システム 導入ガイド

https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/J-OSLER/Guide.pdf

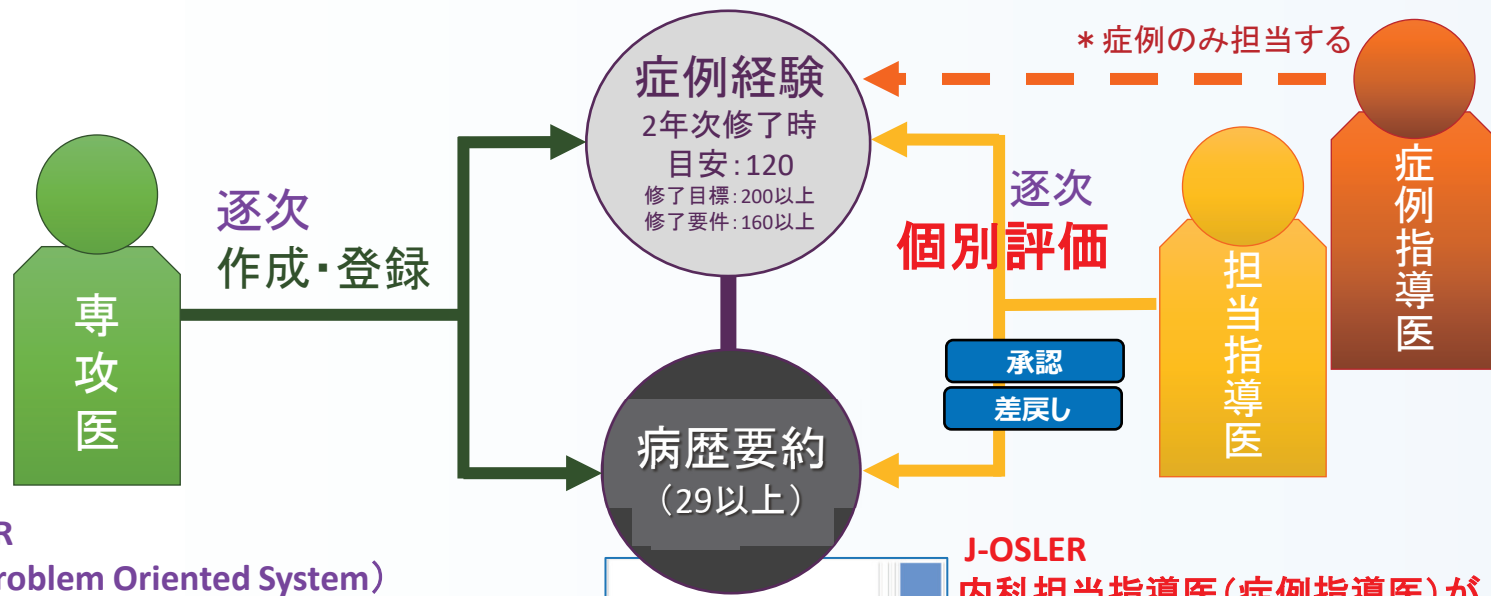


2年次修了時までの症例経験・病歴要約の個別評価

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

内科専門研修プログラム整備基準 (2017年8月21日)

病歴要約 評価の手引き J-OSLER版 (2018年11月26日)



J-OSLER

POS (Problem Oriented System)

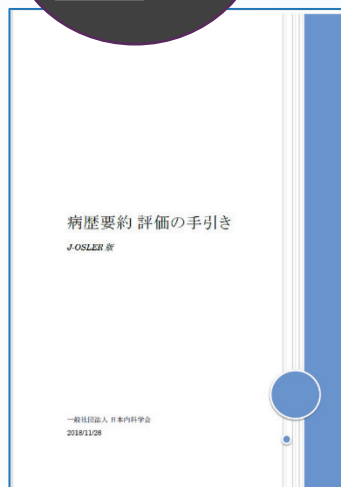
方式による病歴要約作成

- ・全て異なる疾患群
- ・外来症例の病歴要約7例まで

★病歴要約を作成する上での
チェックポイントを必ず読みましょう

J-OSLER

内科担当指導医(症例指導医)が
専攻医を全面的に形成的評価・指導



病歴要約を作成する上でのチェックポイント（抜粋）

病歴要約 評価の手引き J-OSLER版(2018年11月26日)

病歴

- ◆主病名について記載する.
- ◆その他の主・副病名や合併症など**すべての病気の経緯も簡潔に**言及する.

考察・総合考察

主病名を中心にその重症度、副病名との関連について言及し、診断および治療法選択における妥当性を簡潔に議論する.

さらに最後には**患者を全人的に捉えた『総合考察』を必ず記載**する.

そこではプロブレム間の考察や社会的・心理的側面についても言及されていることが望ましい.

※総合考察では、単に症例の感想を述べるのではなく、症例を客観的に評価することができるかどうか評価される.

病歴要約評価の手引きに準拠した作成・評価を

病歴要約 評価の手引き J-OSLER版 2018年11月26日

https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/J-OSLER/Tebiki_ByorekiHyoka.pdf

- ・日本語としての適切さ(主語、述語など)
- ・記載の整合性(選択領域、主病名、主訴と経過、単位、文献引用形式など)

1. 基本的記載
2. 症例選択の適切さ
3. 診断プロセスは適切か
4. 治療法は適切か
5. 十分に考察されているか
6. 倫理的妥当性(倫理的配慮)

病歴要約 評価の手引き

J-OSLER 版

『病歴要約
作成の手引き』
でもあります

一般社団法人 日本内科学会

2018/11/26

The screenshot shows the J-OSLER web application interface for medical history evaluation. The browser address bar shows the file path: C:\Users\NAIKA28\Desktop\SM030301_病歴要約情報評価・決裁結果登録#病歴要約評価. The page title is "J-OSLER 病歴要約 評価". The user is logged in as "指導医 花子 様" with a login time of 2017/07/01 12:12:12 and a session timeout of 45 minutes. The main content area is titled "病歴要約 評価" and shows a progress bar with four steps: STEP1 評価, STEP2 チェックリスト (highlighted), STEP3 確認, and STEP4 完了. Below the progress bar, there is a message: "チェック項目を満たしているかご確認のうえ、「OK」にチェックしてください。よろしければ「確認画面へ」をクリックしてください。". The "チェック項目" (Check Items) table is as follows:

チェック項目	内容	評価
1. 基本的記載	①病歴要約の記述が本作成の手引きに従っているか(項目は脱落していないか)。	—
	②記載に際して、誤字・脱字、検査データ等の転記ミス、文章表現の誤りなどはないか。	—
2. 症例選択の適切さとバランス	③医学的不整合性、基本的誤りまたは不備などはないか。	—
	④診断に必要な検査の記載は充分であるか。(副病名は認めない。)	—
3. 診断プロセスは適切か	①現病歴に関する聴取は聴取所見も含めて十分記載されているか。	例示する
	②経過、身体診察の記載は充分であるか。	例示する
	③診断に必要な検査の記載は充分であるか。	例示する
	④診断に必要な画像所見の記載は充分であるか。	例示する
	⑤鑑別診断については十分記載されているか。	例示する
	⑥診断名が適切であるか。	例示する

病歴要約評価は形成的評価・指導で

内科専門研修プログラム整備基準（2017年8月21日）
病歴要約 評価の手引き J-OSLER版（2018年11月26日）

内科専門研修プログラムの修了判定基準の1つ

個別評価・一次評価・二次評価)による査読・形成的評価を経て受理



担当医としてどのような症例を経験し、その患者をどのように診断し治療したかの過程と、その症例を通じて何を学んだかを評価する。

内科医に求められる重要な資質とは、疾患の診断や治療のみならず、患者を一人の人間として付き合うことでもあり、出会いから退院、あるいはその後にいるまでの長いかわりが重要であり、その資質を評価する。

どのくらい専門分野的に優秀かの評価ではなく、内科専門医として相応しい達成すべきレベルに至るように促す形成的評価を行う。

剖検症例を含めた29症例の病歴要約の選択

https://www.naika.or.jp/jsim_wp/wp-content/uploads/2018/03/submitted.pdf

内科専攻研修において求められる「疾患群」「症例数」「病歴要約提出数」について

	内容	専攻医3年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医3年修了時 修了要件	専攻医2年修了時 経験目標	専攻医1年修了時 経験目標	病歴要約提出数
分野	総合内科I (一般)	1	1※2	1		2
	総合内科II (高齢者)	1	1※2	1		
	総合内科III (腫瘍)	1	1※2	1		
	消化器	9	5以上※1※2	5以上※1		
	循環器	10	5以上※2	5以上		3
	内分泌	4	2以上※2	2以上		3※4
	代謝	5	3以上※2	3以上		
	腎臓	7	4以上※2	4以上		
	呼吸器	8	4以上※2	4以上		3
	血液	3	2以上※2	2以上		2
	神経	9	5以上※2	5以上		2
	アレルギー	2	1以上※2	1以上		1
	膠原病	2	1以上※2	1以上		1
	感染症	4	2以上※2	2以上		2
救急	4	4※2	4以上	2		
	外科紹介症例					2
	剖検症例					1
	合計 ※5	70 疾患群	56 疾患群 (任意選択含む)	45 疾患群 (任意選択含む)	20 疾患群	29 症例 (外来は最大7)※3
	症例数 ※5	200 以上 (外来は最大20)	160 以上 (外来は最大16)	120 以上	60 以上	

※1 消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」「肝臓」「胆・膵」が含まれること。

※2 修了要件に示した分野の合計は41疾患群だが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。

※3 外来症例による病歴要約の提出を7例まで認める。

病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

※4 「内分泌」と「代謝」からは、それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例)「内分泌」2例 + 「代謝」1例、 「内分泌」1例 + 「代謝」2例

※5 初期臨床研修時の症例は、例外的に各研修プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる(最大80症例を上限とすること。病歴要約への適用については最大14使用例を上限とすること)。

剖検症例

(認定内科医試験・総合内科専門医試験ともに同じ)

https://www.naika.or.jp/nintei/exam/faq_top/faq_nintei/

https://www.naika.or.jp/nintei/exam/faq_top/faq_senmoni_jyuraidoori/

その患者を生前から受け持っていないのであれば、剖検症例として使用できません。

また、次記7項目をほぼ満たしていることも必須条件となっています。

1. 終末期医療の実践
2. 死亡の宣告
3. 遺族への剖検依頼
4. 剖検に際しての臨床上の問題点等を整理して病理へ提出
5. 剖検への立会い
6. 剖検所見との対比による考察
7. CPCへの参加

新専門医制度FAQ

https://www.naika.or.jp/nintei/shinseido2018-2/shinseido_faq/

Q: 1つの剖検症例を複数名の医師が経験症例として登録することは可能でしょうか。

A: **異なる期間に主担当医として経験した症例であれば可能です。**

ただし、剖検への立会等、当該症例の病歴要約を作成できる状況であった場合に限りです。

内科専門研修での 病歴要約評価と修了判定における J-OSLERの利用

症例経験・病歴要約の個別評価

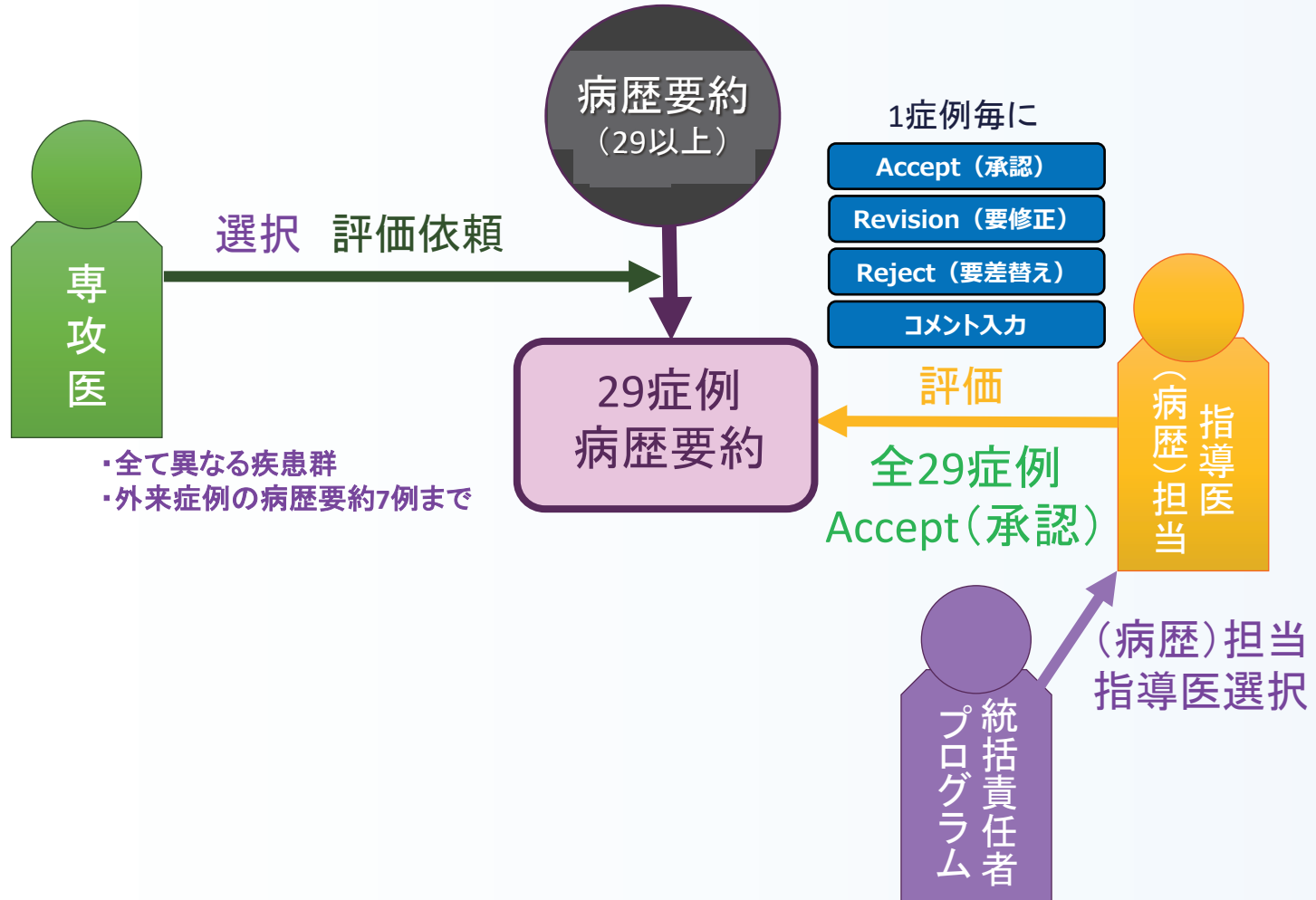
病歴要約の一次評価(プログラム内)

病歴要約の二次評価(プログラム外)

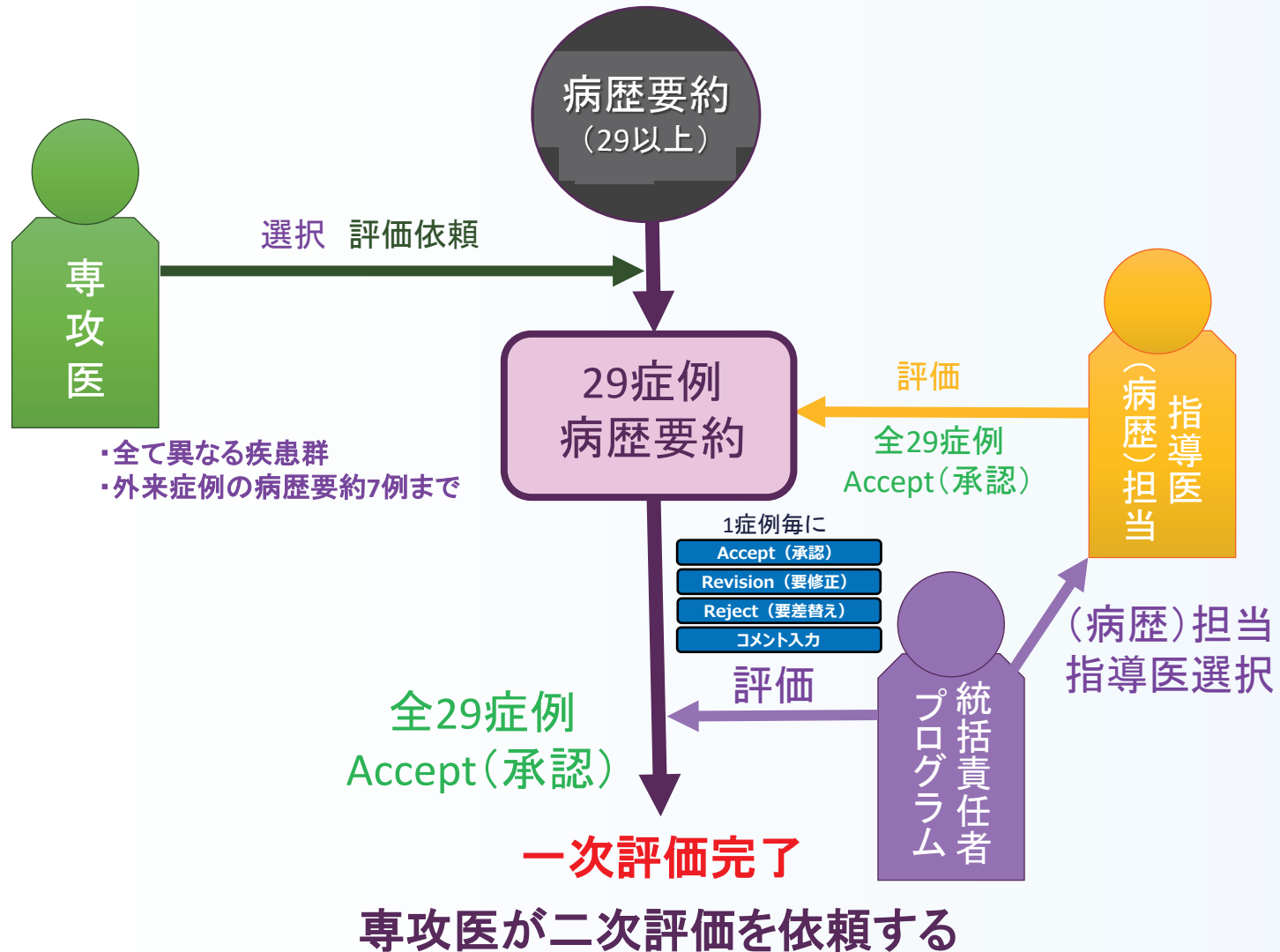
修了判定基準の登録

3年次開始にはプログラム内で一次評価を開始

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合



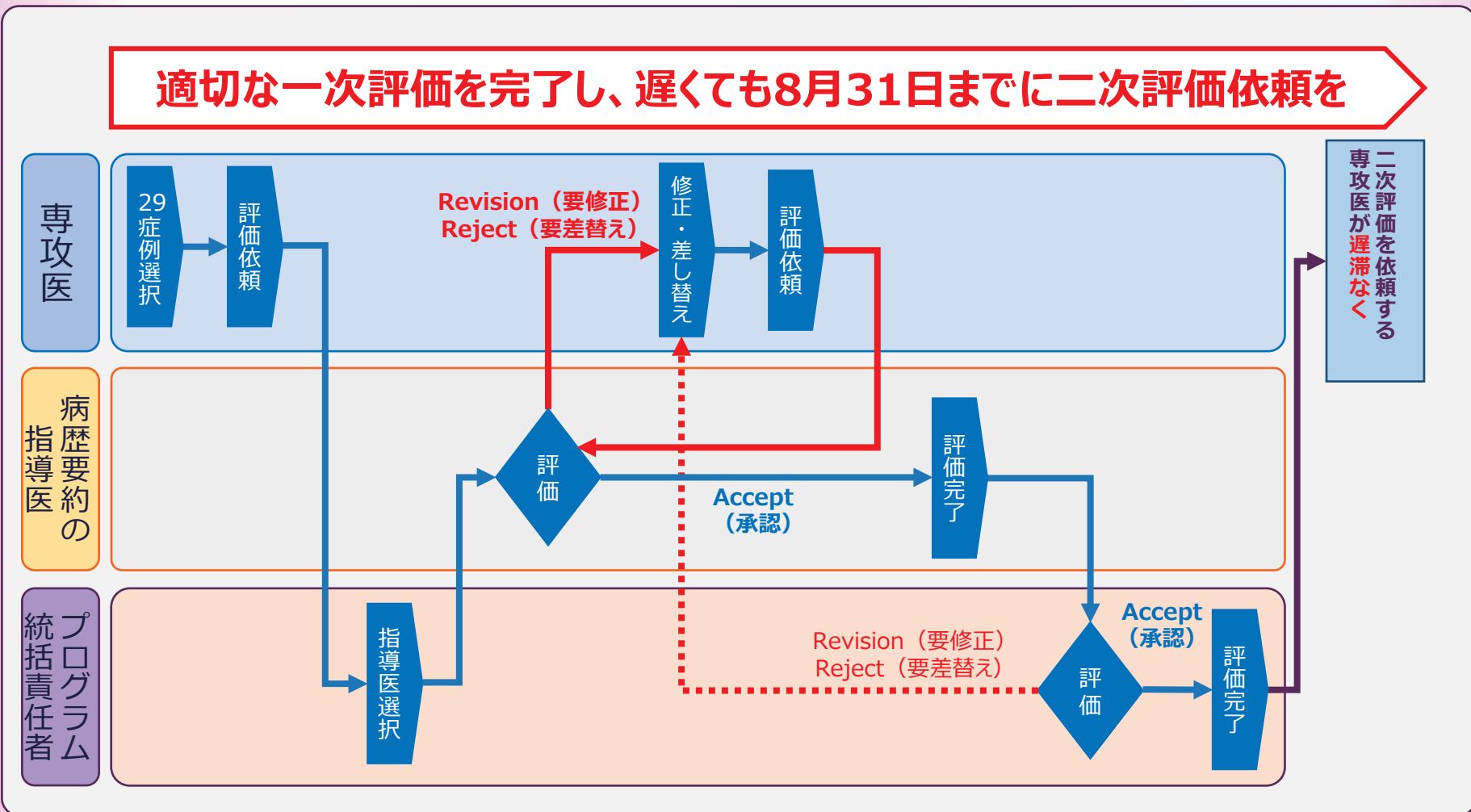
プログラム統括責任者の承認 = 一次評価完了



病歴要約の一次評価（プログラム内）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

適切な一次評価を完了し、遅くとも8月31日までに二次評価依頼を



内科専門研修での 病歴要約評価と修了判定における J-OSLERの利用

症例経験・病歴要約の個別評価

病歴要約の一次評価（プログラム内）

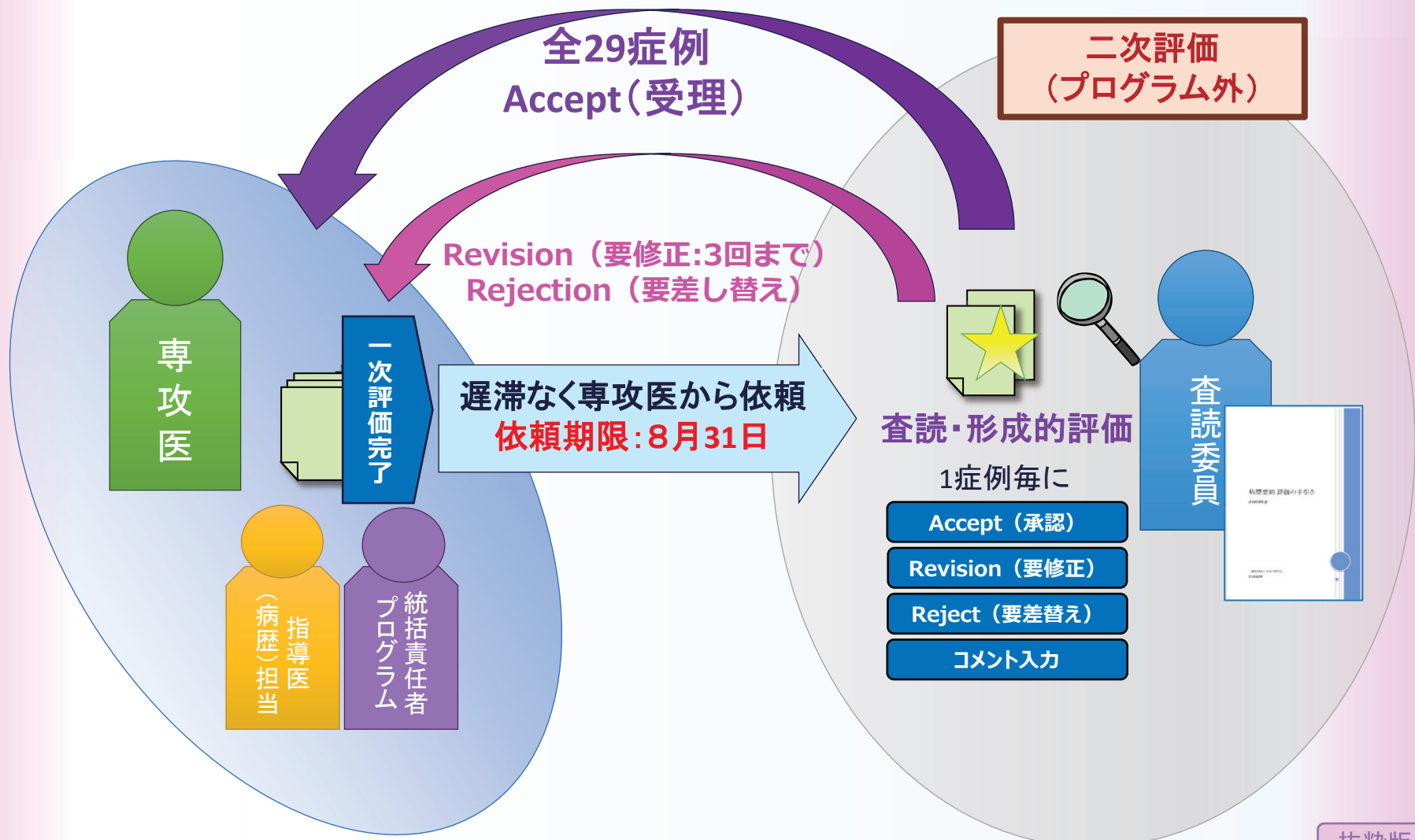
病歴要約の二次評価（プログラム外）

修了判定基準の登録

病歴要約の二次評価（プログラム外）

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

専門研修3年次 12月20日までにAcceptを



病歴要約評価の期限

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

病歴要約個別評価は専攻医2年目修了時**29症例以上**

3年次開始時に最終的に提出する29症例を確定後
一次評価(プログラム内)を



二次評価(プログラム外)依頼期間:**3年目8月31日まで**

二次評価(プログラム外)期間:**3年目5月～12月20日まで**

一次評価・二次評価が遅れた場合、その年度では修了できない

内科専門研修での 病歴要約評価と修了判定における J-OSLERの利用

症例経験・病歴要約の個別評価

病歴要約の一次評価（プログラム内）

病歴要約の二次評価（プログラム外）

修了判定基準の登録

内科専門研修プログラムでの教育・学術活動(必須)

内科専門研修プログラム整備基準 (2017年8月21日)

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢である。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となる。このため、症例の経験を深めるための学術活動と教育活動とを目標として設定する。

教育活動(必須)

- 1) 初期臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
- 2) 後輩専攻医の指導を行う。
- 3) メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。

学術活動

- 4) **内科系の学術集会や企画に年2回以上参加する(必須)。**

※ 推奨される講演会として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPCおよび内科系サブスペシャルティ学会の学術講演会・講習会など。

- 5) 経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
- 6) クリニカルクエスチョンを見出して臨床研究を行う。
- 7) 内科学に通じる基礎研究を行う。

(上記のうち5)~7)は**筆頭演者または筆頭著者として学会あるいは論文発表を2件以上**すること)

内科専門研修プログラムの修了判定基準

内科専門研修プログラム整備基準 (2017年8月21日)

- 1) 統括責任者は、**J-OSLERを用いて研修内容を評価**し、以下 i)～vi)の修了を確認。
 - i) **主担当医として「研修手帳(疾患群項目表)」に定める目標:全70疾患群を経験し、計200症例以上**(外来症例は20症例まで含むことができます)を経験し、J-OSLERに登録、指導医の承認済。
修了認定:主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160症例以上の症例(外来症例は登録症例の1割まで)を経験し、登録、指導医の承認済。
 - ii) **29病歴要約が内科専門医ボードによる査読・形成的評価を経て受理**。
 - iii) **所定の2編の学会発表**(抄録またはプログラムのコピー)または**論文発表**(論文の別刷りまたはコピー)
 - iv) **JMECC受講**
 - v) **プログラムで定める講習会受講**
医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会:任意の異なる組み合わせで年間**2回以上の受講**すること(受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料など)。
 - vi) **J-OSLERを用いてメディカルスタッフによる360度評価(内科専門研修評価)と指導医による内科専攻医評価**を参照し、社会人である医師としての適性に疑問がない。
- 2) **研修プログラム管理委員会**は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認、**研修期間修了約1か月前に研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定**、〇〇病院内科専門医研修プログラム修了証を発行。

修了判定基準の登録・確認 ①

専攻医 画面イメージ①

修了判定基準の登録



管理情報

専攻医	内科 太郎
プログラム統括責任者 (正・副)	内科 四郎

経験すべき疾患・病態

二次評価完了日	2020/07/15 16:30		
分野	症例数	疾患群数	病歴要約数
総合内科Ⅰ (一般)	10	1 / 1	2
総合内科Ⅱ (高齢者)	10	1 / 1	
総合内科Ⅲ (腫瘍)	10	1 / 1	
消化器	10	7 / 5	3
循環器	10	7 / 5	3
内分泌	10	3 / 2	3
代謝	10	4 / 3	
腎臓	10	7 / 4	2
呼吸器	10	7 / 4	3
血液	10	2 / 2	2
神経	10	5 / 5	2
アレルギー	10	2 / 1	1
膠原病	10	2 / 1	1
感染症	15	3 / 2	2
救急	15	4 / 4	2
外科紹介症例	-	-	2
剖検症例	-	-	1
合計数	160	56	29

半期ごとの研修評価 (登録日時)

	2018年 上期	2018年 下期	2019年 上期	2019年 下期	2020年 上期	2020年 下期	
自己評価	2018/7/1	2019/1/1	2019/7/11	2020/1/1	2020/7/21	2021/1/1	参照
指導医評価	2018/7/2	2019/1/2	2019/7/12	2020/1/2	2020/7/22	2021/1/2	参照
プログラム評価	2018/7/3	2019/1/3	2019/7/13	2020/1/3	2020/7/23	2021/1/3	参照

経験すべき診察・検査等

技術・技能評価 ※指導医からの最新の評価を表示しています。

凡例

総合内科Ⅰ (一般)	☆☆☆☆☆	呼吸器	☆☆☆☆☆
総合内科Ⅱ (高齢者)	☆☆☆☆☆	血液	☆☆☆☆☆
総合内科Ⅲ (腫瘍)	☆☆☆☆☆	神経	☆☆☆☆☆
消化器	☆☆☆☆☆	アレルギー	☆☆☆☆☆
循環器	☆☆☆☆☆	膠原病及び関連疾患	☆☆☆☆☆
内分泌	☆☆☆☆☆	感染症	☆☆☆☆☆
代謝	☆☆☆☆☆	救急	☆☆☆☆☆
腎臓	☆☆☆☆☆		

到達度の自己評価 必須 ☆☆☆☆☆

経験すべき手術・処置等

JMECC

受講日時 必須	<input type="text"/>
JMECCコース認定番号 必須	<input type="text"/>
修了証 必須	<input type="text"/> ファイルを選択

地域医療の経験

病診・病病連携・地域包括ケア・在宅医療など

到達度の自己評価 必須	☆☆☆☆☆
経験した地域医療	<input type="checkbox"/> 病診の経験 <input type="checkbox"/> 病病連携の経験 <input type="checkbox"/> 地域包括ケアの経験 <input type="checkbox"/> 在宅医療などの経験

修了判定基準の登録・確認 ②

専攻医 画面イメージ②

学術活動				筆頭著者または筆頭著者として学会あるいは論文発表																													
教育活動				1件目 <small>必須</small>	年月	<input type="text"/>																											
到達度の自己評価 <small>必須</small>					タイトル	<input type="text"/>																											
初期研修医あるいは医学部 後輩専攻医の指導				2件目 <small>必須</small>	写し	<input type="text"/> <small>ファイルを選択</small>																											
メディカルスタッフの尊重および					年月	<input type="text"/>																											
内科系学術集会への参加 (推奨として、日本内科学会本部または支部主催の生涯教育)				1回目	タイトル	<input type="text"/>																											
プログラムで定める講習会の受講 (医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会：任意の異なる組み合わせで年間2回以上)				受講日 <small>必須</small>	写し	<input type="text"/> <small>ファイルを選択</small>																											
1回目	参加日 <small>必須</small>	<input type="text"/>		2回目	講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
	学術集会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>			ファイル	<input type="text"/> <small>※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップ</small>																											
	参加票	<input type="text"/>			受講日 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
2回目	参加日 <small>必須</small>	<input type="text"/>		講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																												
	学術集会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>		ファイル	<input type="text"/> <small>※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップ</small>																												
	参加票	<input type="text"/>		3回目	受講日 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
3回目	参加日 <small>必須</small>	<input type="text"/>		講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																												
	学術集会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>		ファイル	<input type="text"/> <small>※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップ</small>																												
	参加票	<input type="text"/>		4	講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
4回目	参加日 <small>必須</small>	<input type="text"/>		受講日 <small>必須</small>	<input type="text"/>																												
	学術集会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>		講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																												
	参加票	<input type="text"/>		ファイル	<input type="text"/> <small>※受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料をアップ</small>																												
5回目	参加日 <small>必須</small>	<input type="text"/>		5	講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
	学術集会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>		受講日 <small>必須</small>	<input type="text"/>																												
	参加票	<input type="text"/>		6	講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
6回目	参加日 <small>必須</small>	<input type="text"/>		7	講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
	学術集会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>		受講日 <small>必須</small>	<input type="text"/>																												
	参加票	<input type="text"/>		8	講習会名 <small>必須</small>	<input type="text"/>																											
評価追加 ※10件目まで追加入力できます。				研修歴																													
評価追加 ※10件目まで追加入力できます。				<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>研修実績</th> <th>期間</th> <th>所属</th> <th>補足</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>くだむい.研修 ○ 休職等</td> <td><input type="text"/> ~ <input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>○ 研修 ○ 休職等</td> <td><input type="text"/> ~ <input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>○ 研修 ○ 休職等</td> <td><input type="text"/> ~ <input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>○ 研修 ○ 休職等</td> <td><input type="text"/> ~ <input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> <td><input type="text"/></td> </tr> </tbody> </table>					No.	研修実績	期間	所属	補足	1	くだむい.研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	2	○ 研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	3	○ 研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	4	○ 研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
No.	研修実績	期間	所属	補足																													
1	くだむい.研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>																													
2	○ 研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>																													
3	○ 研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>																													
4	○ 研修 ○ 休職等	<input type="text"/> ~ <input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>																													
専攻医からのコメント				<input type="text"/>																													
一時保存				印刷・PDF化																													
確認画面へ進む																																	

プログラム統括責任者の画面

- 1) 専攻医が入力した内容が表示される。
- 2) 「プログラム管理委員会で修了認定しました」というチェックボックスと認定日付を入力する項目を追加する。

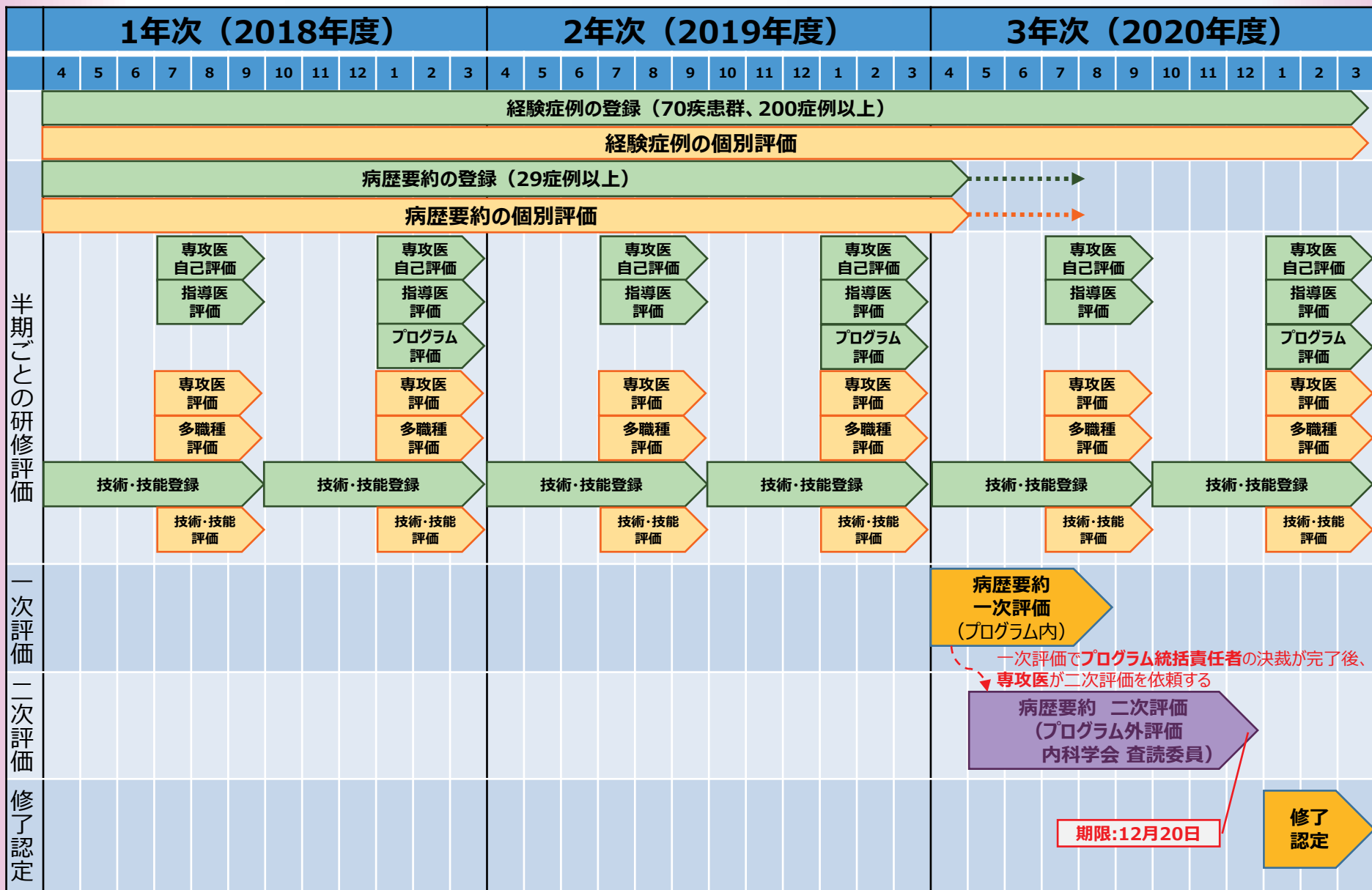
J-OSLER イベントスケジュール

内科専門研修を3年間で修了を目指す場合

内科専門研修プログラム整備基準（2017年8月21日）を基に、2018年4月研修開始専攻医向けに作成

専攻医
が登録

指導医
が登録



内科専門研修における形成的評価・指導

逐次的に研修実績をJ-OSLERに登録する

⇒ 研修の中断, 再開, 変更も容易に可能

形成的評価・指導 = 専攻医の気づきを促す

1) 症例登録での自己省察

2) 病歴要約での総合考察

個別評価 (担当指導医による)

病歴要約 一次評価 (プログラム内)

二次評価 (プログラム外)

⇒ 内科専門医として相応しい臨床の歩みを

内科専門研修・指導の証を、適切にJ-OSLERに登録して、
generalityとsubspecialtyの調和のとれた
より良い内科専門医を目指す(育成する)。